



NEWS 平成14年度哲学堂祭を挙げる

本学創立者、井上円了の遺志により毎年11月の第一土曜日に行われている哲学堂祭が11月2日(土)に挙行された。午前10時から井上博士の墓前で墓前祭が営まれ、蓮華寺住職による読経が行われた。その後神田道子学長が「南無絶対無限尊」の三唱を行い参列者がそれに続いた。哲学祭は場所を哲学堂公園に移動。四聖堂では初めて神田学長、菅野卓雄理事長が挨拶。続いて円了博士の子孫である井上家を代表して、井上民雄氏より遺文朗読が行われた。宇宙館で行われた、「甦るカント」現代の転換点と哲学の課題」と題した記念講演では、長島隆文学部教授が「現代は再び哲学が求められている時代である」と語り、その中でもカント哲学が関心の的となっている」と説明した。



NEWS 第16回法学部長杯法律討論会開催

10月11日(金)午後1時30分から、朝霞キャンパス2号館大講義室で第16回法学部長杯法律討論会が行われた。今年度の討論問題は名譽健二教授が憲法部門から出題した。討論会は立論の部、質問の部に分けられ、それぞれ3位までの入賞者が発表された。立論の部
第1位 柿沼義広(法律3年)
第2位 伊古田大輔(法律2年)
第3位 山元貴之(法律2年)
質問の部
第1位 嶋田裕介(法律2年)
第2位 岩永博喜(法律2年)
第3位 竹村紗央里(法律1年)
立論の部で優勝した柿沼義広君(法律3年)は民法ゼミナール「法志会」と今上益雄ゼミに所属。今年の模擬裁判では実行委員長を務めた。現在、司法試験を目指して勉強中。

NEWS 「学長・記者懇談会」が開催される

東洋大学を広く社会に知ってもらうための東洋大学学長とマスコミ記者との懇談会が、11月12日(火)11時30分から白山キャンパスで開催された。メインの学長講演のテーマは「いま問われている大学の研究 東洋大学の取り組み」。大学の研究はどうあるべきか、東洋大学はどのような研究をいかなる体制で進めているのかなどについて、神田道子学長が現状と将来の構想を語った。講演終了後行われた懇談会では、出席した記者と神田学長・研究所長ら、東洋大学の研究の具体的内容や将来構想等について意見を交わした。



NEWS 平成14年度校友大会開催

平成14年度校友大会が11月16日(土)白山キャンパススカイホールで開催された。校友大会は年1回校友会本部主催で開催される卒業生の集い。今年には中北徹経済学部教授による講演会や懇親パーティが行われ、約300人が出席した。開会にあたって菅沼晃校友会会長、神田道子学長、田淵順一常務理事が挨拶、磯辺管子校友会副会長から会務報告があった。その後、中北教授が「これからの金融を探る」消費者の視点から」と題して講演を行った。



NEWS 4キャンパスで防災訓練を実施

今年も各キャンパスで防災訓練が実施された(白山10/31・朝霞11/8・板倉11/14・川越11/28)。10月31日(木)白山キャンパス4号館前のキャンパスプラザで行われた訓練では、小石川消防署員が「ホースの先端をしっかりと握る」「炎ではなく燃えているものに直接かける」など消火器の使用方法や注意事項について説明した後、学生と教職員が「火事だ」の掛け声とともに実際に消火器の放射訓練を行った。参加した学生は、「消火器を使ったのは初めてです。これで本番でも安心です」と話していた。訓練には、本学自衛消防隊本部長の菅野理事長はじめ学生・教職員合わせて約100名が参加した。

NEWS ホームカミングデー開催

本学卒業後25年目及び50年目以上の卒業生を大学に招く恒例のホームカミングデーが、11月9日(土)午前11時から白山キャンパスで開催され、全国各地から約200名の卒業生が集まった。ホームカミングデーは平成9年から実施され、今年で5回目となる。講演会では田淵順一常務理事が「東洋大学の現状と未来」と題し、今後の大学の生き残りに向けた展望などを説明、続いて開催された懇談会では、出席した卒業生の中で最年長の大瀧修一氏(昭和10年専門部倫理学東洋文学科卒)が大学時代の思い出を語った。司会は、卒業生の堀本直克群馬テレビアナウンサー(平成3年商卒)が担当。学生サークルのグループヒー・サウ



ンズ・ジャズ・オーケストラや応援指導部のアトラクションが会場を盛り上げ、最後に北海道旭川から出席した石川正芳氏(昭和52年社会卒)の挨拶で午後2時半閉会となった。また、学生サークルのアナウンス研究会が学内を案内するキャンパスツアーには、約40名の校友が参加した。

NEWS 「朝霞MUSIC FESTIVAL」開催

朝霞キャンパスの音系サークルが主催する「朝霞MUSIC FESTIVAL 2002」が10月14日(月)朝霞キャンパスコミュニケーションセンター1階多目的ホールで行われ、約1000人の聴衆を魅了した。この催しは、第一文化団体連合の音楽系サークルが毎年行っているもの。10月9・10・11日の3日間、朝霞キャンパス2号館研究指導棟下と体育館前で昼休みに屋外ライブを行い、積極的にPRを行っていた。



参加団体...管弦楽団、吹奏楽研究部、白山グリークラブ、混声合唱団、ギターアンサンブル、軽音ロック、軽音ジャズサニー、軽音フォークフリーウェイ、グループサウンスジャズオーケストラ

NEWS 今年度司法試験に卒業生が合格

11月13日(水)、平成14年度の司法試験二次試験最終合格者が発表された。本年度は41,459人が受験し、1,183人が合格。本学からは布施崇さん(平成11年法律学科卒、平成13年大学院法学研究科修了)が合格した。発表翌日、本人から喜びの声を聞きました。

合格を知った瞬間の率直な感想は?
とにかくほっとしました。発表会場では思いきり喜びを表している人もいましたが、僕はそれよりも安堵感のほうが大きかったですね。家に帰ってからは家族とゆっくり食事をして、テレビを見るなど十分休息をとりました。

司法試験を目指そうと思ったきっかけは?
普段新聞を読んだり世の中の動きに注目していると、これはおかしいんじゃないのか、など憤りを感じることがあります。それに対して自分が何かできればと考えていたのがきっかけです。また、法学部で学んだことがそのまま仕事に活かせるという魅力でした。

どのような方法で勉強していましたか?
基本書を何度も読み返しました。6~7回は読んだと思います。10ページにつき1時間ぐらいかけていました。用語を暗記しながら、しかも自分の頭でしっかり理解しながら読



む。それを反復するうちに合格できたという感じです。今後の目標は?
裁判官を目指したいです。自分の知識はまだだだと思っっていますから、来年4月から始まる司法研修所での研修まで勉強は続けたいと思います。

理想の裁判官像は?
世間では裁判官が一般人とは考え方がずれている、という認識がされています。言い換えればそれはもっと多数派の意見を尊重すべきである、もっと一般人と同じ感覚になれという事ですね。ただ、裁判官は少数派の意見を聞き、その人権を守る必要があると思います。ですから、世間の感覚と司法の感覚のバランスをうまく保てる裁判官になりたいです。

司法試験合格を目指す人たちに一言
膨大な範囲を勉強しなければなりませんから、集中できる時間をどれだけ作れるかが重要だと思います。

CLUB&CIRCLE

バドミントン部

9月9日～16日 関東大学バドミントン秋季リーグ戦(東洋大学)
 優勝(男子四部リーグ・四部残留)
 優勝(女子四部リーグ・四部残留)

ハンドボール同好会

9月14日～20日 関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦(北里大学)
 優勝(六部リーグ・五部昇格)

弓道部

9月22日～11月3日 平成14年度リーグ戦(各大学弓道場)
 優勝(女子四部リーグ・三部昇格)
 準優勝(男子四部リーグ・四部残留)

ローラースケート部

9月26日～30日 第43回 全日本学生ローラーホッケー選手権大会(岡谷市鳥居平やまびこ公園)
 優勝(女子団体)
 最優秀選手賞 福井涼子(社会3)
 最優秀GK賞 多田桃代(法4)
 第3位(男子団体)
 敢闘賞 斉藤健敬(社4)
 第3位(1600mリレー)

ボクシング部

10月4日～7日 東京都選手権大会(日野自動車健保プラザ)
 優勝(ライトウェルター級)友成 丈(法3)
 優勝(ライトフライ級)小森宣博(法2)
 優勝(ミドル級)千葉昭洋(法1)
 準優勝(フライ級)平得脩一郎(経営1)
 第3位(ウェルター級)福田優平(経済2)
 第3位(ライトフライ級)神谷優季(経営2)
 第3位(ライトミドル級)長谷川禅(経営1)

相撲部

10月6日 第27回全国学生相撲個人体重別選手権大会(大浜公園相撲場)
 優勝(135kg以上級)中野一成(法3)
 11月17日 第51回全国大学選抜相撲高知大

会(春野総合運動公園相撲場)
 ベスト8(団体)

剣道部

10月6日 全日本仏教系大学剣道大会(佛教大学)
 第3位(男子団体)

二部バレーボール部

8月6日 関東二部体育連盟主催秋季大会(東京都立大学体育館)
 準優勝(男子)
 第3位(女子)

二部洋弓部

9月29日 秋季チャンピオンマッチ(横浜南アーチェリー場)
 優勝(GR男子)小林敬幸(経済1)
 10月6日 秋季ターゲット競技会(国際基督教大学射場)
 優勝(Aフライト・RC女子)細川秀子(経営4)
 優勝(Bフライト・RC男子)西村幹夫(経済3)
 優勝(Aフライト・GR男子)小林敬幸(経済1)
 優勝(Aフライト・GR女子)町田桃子(文1)

10月13日 新人戦(花の山アーチェリー場)
 優勝(ターゲット部門・GR男子)
 (フィールド部門・GR男子)
 小林敬幸(経済1)

優勝(ターゲット部門・GR女子)
 町田桃子(文1)

準優勝(フィールド部門・GR女子)
 町田桃子(文1)

10月27日 インドア競技大会(高千穂大学体育館)
 優勝(RC女子)細川秀子(経営4)
 優勝(RC男子)小林敬幸(経済1)

二部柔道部

10月13日 全日本二部学生柔道大会(東洋大学白山体育館)
 第3位(団体)

優勝(女子の部)牧島恵美(文1)
 第3位(重量の部)佐々木誠(経済4)

二部陸上競技部

10月14日 第63回関東二部学生陸上競技秋季大会(大井埠頭陸上競技場)
 第3位(総合の部)
 優勝(400m)半沢充章(文1)
 優勝(5000m)野沢将司(文1)
 優勝(100m女子)(200m女子)
 米川裕美子(社会1)
 準優勝(3000mSC)(1500m)
 北村周資(経営3)
 準優勝(走幅跳び女子)細沼美保(文1)
 第3位(400m)(800m)
 稲村純一(経営2)

第3位(3000mSC)酒井純人(経済2)
 第3位(走幅跳び)漆坂智幸(経営2)
 第3位(走高跳び)側 雅博(経済1)
 第3位(槍投げ)細沼美保(文1)
 優勝(4x400mリレー)
 第3位(4x100mリレー)

アイススケート部・フィギュア部門

10月12日～14日 東京フィギュアスケート選手権大会(明治神宮外苑スケート場)
 第3位 長谷部文(社会2)
 10月19日～20日 第40回関東学生フィギュアスケート選手権大会(東大和アイスアリーナ)
 優勝(女子総合)

二部レスリング部

10月20日 大田区民大会(大田区体育館)
 優勝(96kg級)水口哲也(法3)
 優勝(60kg級)小島俊明(法3)
 優勝(66kg級)佐藤克仁(法2)

空手道部

11月3日 関東学生空手道体重別選手権大会(慶應義塾日吉記念館)
 第3位(70kg級)盈 定義(法3)
 第3位(75kg級)小野秀明(法2)

NEWS 附属牛久高校で平成14年度校内読書感想文コンクール結果が発表される

附属牛久高校で行われている読書感想文コンクールの結果が発表されました。
 優秀賞、入選作品は次のとおり(敬称略)。

- 優秀賞**
- 『パッサジオ』を読んで 3年L組 豊田 梓
 第48回青少年読書感想文全国コンクール
 茨城県高等学校の部 優良賞受賞
 - 『十二番目の天使』を読んで 2年A組 蛭田 智子
 第48回青少年読書感想文全国コンクール
 茨城県高等学校の部 優良賞受賞
 - 『ビリー・ジョーの大地』を読んで 3年E組 中山亜由美
 第48回青少年読書感想文全国コンクール
 茨城県高等学校の部 入選

- 入選**
- 『人生っておもしろい』を読んで 3年J組 加藤 愛子
 - 『救急医、世界の現場へ』を読んで 3年L組 足達 祐子
 - 『救急医、世界の現場へ』を読んで 2年K組 矢口 尚裕
 - 『青空のむこう』を読んで 1年F組 峯岸 麻衣
 - 『青空のむこう』を読んで 1年S組 安田 瑛未

NEWS

文部科学省「学術フロンティア推進拠点」採択記念講演会開催

アジア文化研究所のプロジェクト「東アジア・東南アジア諸国に見る経済発展と都市化による伝統文化の変容」が、文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業の一つである「学術フロンティア推進拠点」として採択されたことに伴い、記念講演会が10月12日(土)白山キャンパスで開催された。

アジア民族造形文化研究所長の金子量重氏が基調講演を行い、続いて地域研究の課題をテーマに、末成道男社会学部教授、松本誠一社会学部教授、宇佐美隆憲社会学部助教授、

福井吉孝工学部教授ら7人の研究者が各自の専門や研究地域の立場から発表を行った。

なお、講演に先立って神田道子学長が挨拶。「このプロジェクトがアジア社会の発展に寄与することを期待している」と述べた。また、プロジェクトマネージャーの後藤武秀法学部教授は、多様な視点でアジアを見ることにより、将来、東洋大学が東アジア・東南アジア研究の拠点になることを目指したい」と意気込みを語った。



NEWS

相撲部が第80回全国学生相撲選手権で2年ぶり2回目の優勝 個人戦で横山英希君が東洋大初の学生横綱に

11月2日(土)、3日(日)に両国国技館で行われた第80回全国学生相撲選手権で東洋大学が団体戦、個人戦ともに優勝を果たした。

2日の個人戦では、主将の横山英希君(法律4年)が優勝。2回戦で優勝候補の内田君(日大)を破って勢いに乗り、

東洋大学で初の学生横綱という名譽を勝ち取った。

続く3日の団体戦では、危なげない戦いで決勝戦まで勝ちあがると、日体大に3回目で勝利し、2年ぶり2回目の優勝を果たした。

横山君は「今回は前日の個人優勝もあったのでダブルで

NEWS

陸上競技部が全日本大学駅伝5位入賞。次回のシード権を獲得!

11月3日(日)に行われた全日本大学駅伝(熱田神宮、伊勢神宮)で陸上競技部が6大会ぶりに出場し、5位入賞を果たした。

8名全員が大学駅伝初出場であったが、1区三行幸一君(経済3年)の区間賞で勢いづくこと、3区でも田辺公大君(経済4年)が区間賞をとるなど攻撃的な姿勢を貫き、来年のシード権を獲得した。



- 大会結果** (時:分:秒)
- 1位 駒澤大学(5:18:41)
 - 2位 山梨学院大学(5:20:14)
 - 3位 日本大学(5:21:40)
 - 4位 大東文化大学(5:22:38)
 - 5位 東洋大学(5:22:55)
 - 6位 早稲田大学(5:23:44)
- (6位までが次大会の出場権を獲得)

NEWS

ライフル射撃選手権で岩田聖子さんが個人1位

10月31日(木)から11月3日(日)まで長瀬総合射撃場で行われた全日本学生ライフル射撃選手権で、射撃部の岩田聖子さん(社会3年)がスモールポア・フリーライフル伏射60発で1位となった。また、エア・ライフル立射60発で6位

となるなどの活躍を見せた。

岩田さんは、昨年のみやぎ国体成年女子フリーライフル3姿勢で3位、今年9月の高知国体で2位につけるなど、好成績を残している。

東洋大射撃部も団体総合で5位と健闘した。



編集 雑記

米国の大学事情について聞く機会があった。ひとつは世界的に有名な大学。卒業生にはしかるべきポストと報酬が用意されている。学生はより高いポストと報酬を目的に勉学に没頭している。ある意味で完璧な学歴社会といえる。一方、こちらはとある田舎の大学。学部長が教師に対して、授業をもっと面白くしてもらえないか、と要請する。学生は、最小の努力(学習時間)で最大の効果(良い成績)を得るために、教師に参考文献のサマリー(要約)を要求する。

日本の大学生はあまり勉強しないと書かれて久しい。アメリカの学生が勤勉で、日本の大学生は怠け者であるはずがない。原因のひとつは、人の資質にあるのではなく、システムにあるのではないだろうか。米国ではより良い成績(もちろん内容の伴ったもの)が将来につながる。奨学金の充実、図書館の24時間開館など、勉学意欲のある学生に対しては最大限の便宜をはかる。残念ながら、日本の大学はそのようなシステムにはなっていないようだ。現状を改めるには社会システム全体が変わらなければならないが、大学としてできることはある。コスト意識を持つために、学生は全員授業料を自分で借り入れ、卒業後返還することにしたらどうか。奨学金や報奨金・表彰制度の拡充によって学生のやる気をもっと喚起するのはどうか。さて、このように大学のことを考えながらいつも気になっていることがある。今の大学生は大学とそこで学ぶ学生たちの現状をどう考えているのだろうか。さらに、おまえが大学生の時はどうだったんだと問われないかということだ。